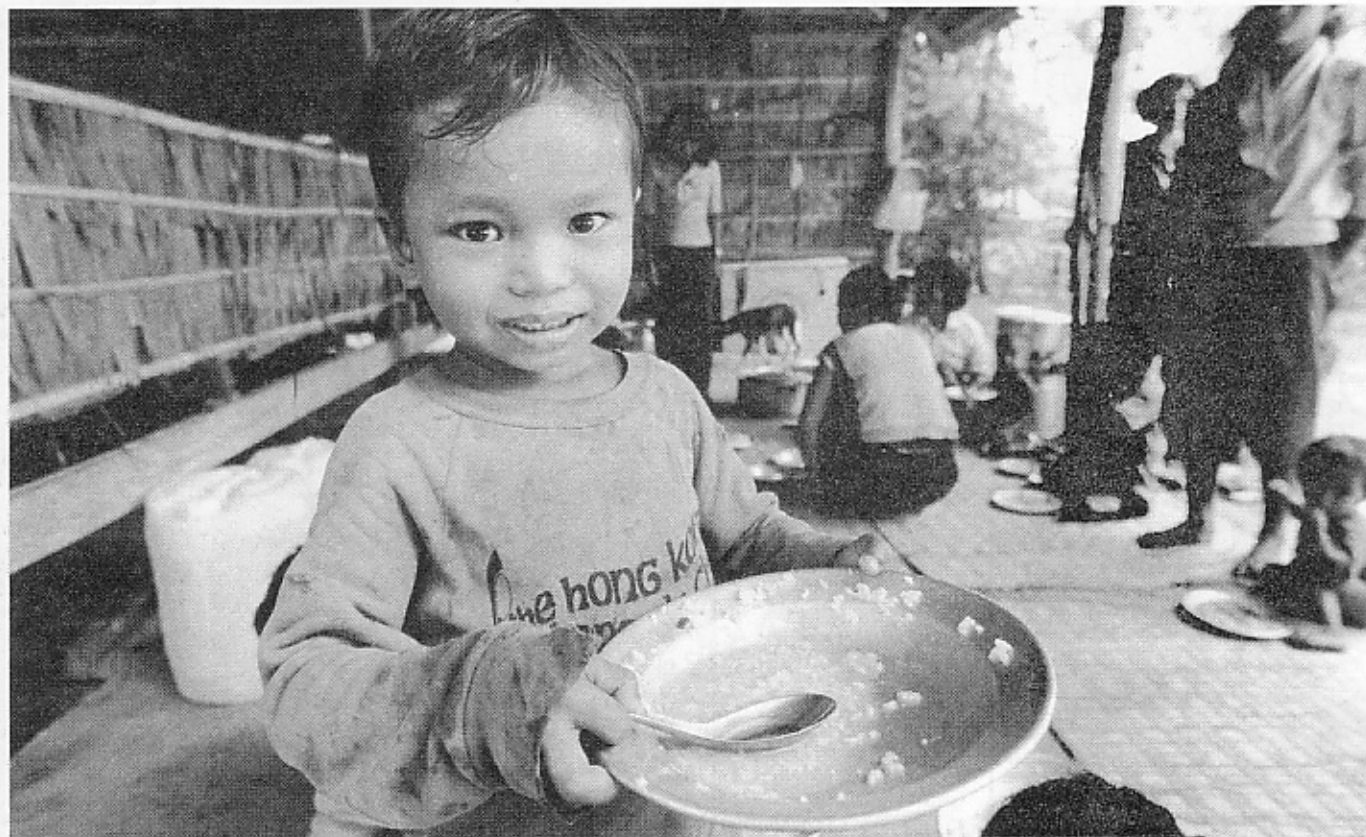


Children, Our Future



CARING FOR YOUNG REFUGEES
幼い難民を考える会

子どもたちの明日



サムロンクロム村保育所のお昼とき
Lunch time at Samrong Khrom

CYR News No.33
ニュース 1994年4月

1994年度の活動に向けて 1
Action Plan for 1994

支援者ネットワーク 3
CYR Supporters Network

日本各地の支援者を結んで 5

山形放送とCYK 野村美知子
Yamagata Broadcasting Company and CYK M. Nomura

豊田市とバライ村の出会い 高田美江子
Toyota Women's Volunteer Society and DEK M. Takata

手作業の小学校建設 鈴木隆史
To Help the Construction of a School Building T. Suzuki

カンボジアの村から 7
ブノンペン発 しくる通信 Cyclo News from Phnom Penh

タイの村から 8
アランヤプラテート発ドーデッキDor-DEK from Aranyaprathet

最新情報 Latest Developments 9

カンボジア Cambodia

織物プロジェクト
Weaving Class

バンキアン保育所新設
Bankeang, CYK's Forth Nursery School
in Cambodia, Opens in April

テッカポンヨ小学校建設
A New Building of Tekkaponyo Primary School

タイ Thailand

タイの村に絵本の贈りもの Picture Books for Children

CYRフィールドトリップ1994年 10
Field Trips to Thailand and Cambodia

事務局より Announcement from the Secretariat 10

1994年度の活動に向けて

地球社会の子どもたちを育てよう

カンボジアで、タイでけんめいに生きる村の子どもたちや人たちがその自助努力の姿勢に、私たちも学んでいます

カンボジアの

2つの村で

人づくり

「カンボジアの国の明日はカンボジアの人の手で」をめざし、保育や地域開発にあたるカンボジア人を育てる。村の中では、保育者や家庭相談員など、村のリーダーとなる若者たちを育成する。

保育所の運営

今春オープン予定のバンキアン保育所をふくめ、4つの保育所の運営、保育者育成を続け、村の人たちが自ら保育運営できる環境作りをする。また、村の小学校の教育環境改善に向けて協力する。

保健医療協力

ブノンベン市保健局の協力のもと、村の巡回医療と健康相談、予防接種などの活動を継続する。村の人たちと共に保健医療の普及に努める。

収入向上プログラム

一家の担い手である女性の収入向上の道を探るため、その実践のひとつとして始まった織物トレーニングを継続していく。村の人たちとともに、生活環境改善のための具体策の試行。

対象地域	対象者
ブノンベン市 ダンカオ郡 サムロンクROM村	約 3200 名
カンダール県 カンダールスタン郡 バンキアン村	約 1800 名

タイの国境沿い

15カ村で

人づくり

タイのプロジェクトを共同で進めるグループ「DEK」(1993年CYRのタイ人スタッフが主となり発足させた)のスタッフを育てる。保育者の育成とともに、村のリーダーとなる若者たちの自発的な活動参加を呼びかける。

保育プログラム

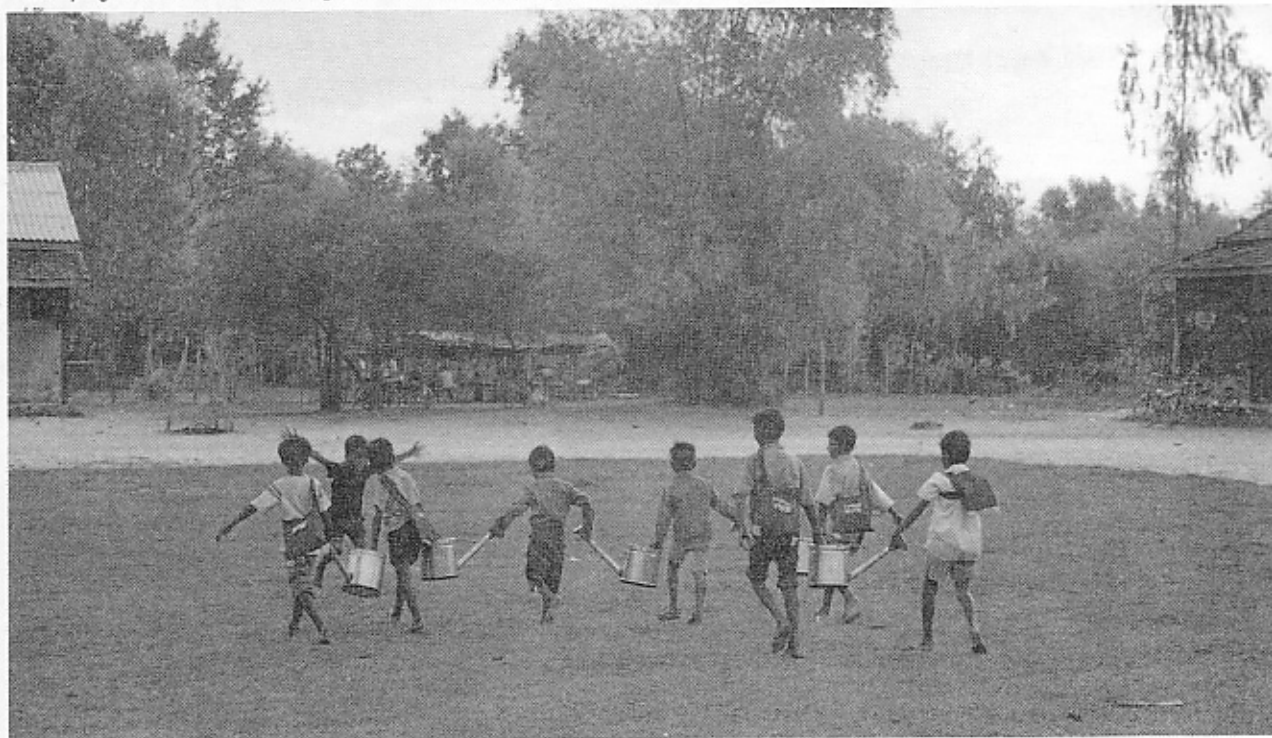
パライ村他2カ所の村の保育所で、子どもたちの健やかな成長を願い、保育者や子どものお母さん、保育所運営委員会とともに、保育活動を進める。また、アランヤプラテートの15カ所の保育者との合同研究会を開催する。

新しい村づくり

村の人たちの相談にのり、生活環境の向上についての手立てを探る。保育所を中心とした無農薬による菜園・果樹園、養魚や農業研修、技術研修などを進める。

対象者	対象地域
幼児(0~6歳) 保育者など 約 3000 名	サケオ県アランヤプラテート郡 タブリック村 パライ村 ノンブルー村 他12カ所の村

学校菜園へ水を運ぶ少年たち／カンボジア・プノンベン郊外 テッカポンヨ小学校で
Carrying water to their school vegetable field at Tekkaponyo primary school, Cambodia



そして日本で

「日本に求められている国際社会での役割」を意識して、ともに行動する人たちの参加、協力を求める。

1. 日本からの専門家派遣および協力要請
2. CYRフィールド・トリップ実施
3. 小・中・高校生を中心に教育機関を中心とした交流を助ける

定住者（在日ベトナム人、ラオス人、カンボジア人）への協力

1. 生活情報紙

「こんにちはCYRです」の発行
1988年から始めた情報紙を引き続き日本語とインドシナの3カ国語で発行する。

定住インドシナの人たちと共同で企画製作し配付する。

2. 交流活動

インドシナの家庭料理講習会や夏期の子どもキャンプなどを通してインドシナと日本の人々が互いの文化の違いや良さを知り、理解し合う機会をつくる。

今年6月開催予定のCYR総会において、事業計画ならびに経費についてご協議いただけます。

Action Plan for 1994

To Build a Future Generation of the Global Community

Our activities in Cambodia and Thailand are based on mutual understanding of people between Japan and other Asian countries

■ Cambodia

To Develop Human Resources

Training of local youths to undertake child care program operation.

To Run Child Care Center

Four child care centers will be in operation, we also will support activities aiming at primary schools.

To Help Medical Care

Mobile clinics and community vaccinations program will be provided for villagers.

To Support Income Generating Activities

Weaving classes for women will be continued.

Location

Samrong Khrom,
Dang Khao dist.,
Phnom Penh about 3,200

Bankeang,
Kandalstung dist.,
Kandal Province about 1,800

■ Thailand

To Develop Human Resources

Training of the staff and village youths

Child Care Program

While running child care center, study sessions with child care specialists in Aranyaprathet will be conducted.

To Improve the Quality of Village Life

Training program on organic farming, fish breeding etc. will be conducted.

Location

Parai, Nongprue, Tapphrik.

12 other vills. in Aranyaprathet,
Sakeo Prov.

children (aged 0 - 6) about 80
child - care specialists 35
mothers and villagers about 3,000

■ Japan

To Promote Understanding of Asian Countries

Invite people to join the following CYR activities.

1. Assessment and training by experts
2. Field trips to the areas of CYR's activities
3. Exchange a program with Japanese students

To Help Resettled People from Vietnam, Laos, and Cambodia

1. Production and distributions of publications in four languages
2. Organize activities to promote mutual understanding

北海道
Hokkaido

3
21

東北
Tohoku

1
21

関東
Kanto

46
1,014

中部・北陸
Chubu・Hokuriku

9
95

1 2

青森 1 2
岩手 5
秋田 3
宮城 4
山形 3
福島 4

4

栃木 4
群馬 2 13
茨城 1 24
埼玉 74
千葉 2 78
東京 33 602
神奈川 8 219

7

山梨 7
静岡 3 20
愛知 2 27
岐阜 3
三重 5
新潟 1 4
長野 2 9
富山 1 18
石川 1
福井 1

海外 1 5

タイ Thailand 1
中国 China 1
パキスタン Pakistan 1
オーストラリア Australia 1
米国 U.S.A. 1
カナダ Canada 1

みなさまに育てていただいたCYRも14歳

私たちの課題は



日本中に広がったアジアの子どもへの関心を

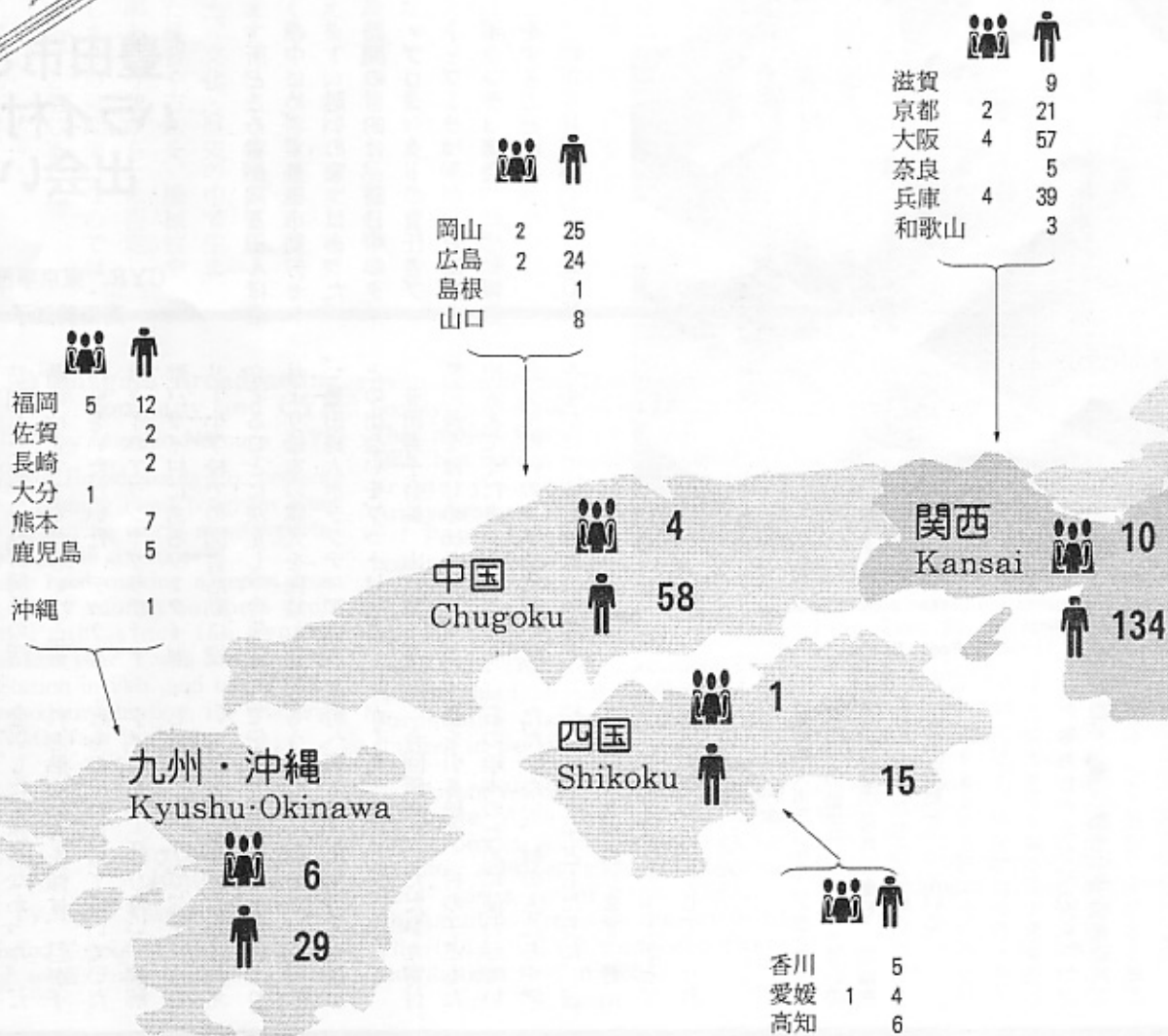
これから日本の各地で

どう育てるかということです

支援者ネットワーク

(1993年1月1日~12月31日) CYR Supporters Network

支援団体  81 Organizations
 支援者  1,392 Individuals



山形放送と CYK

CYK, プノンペン
野村美知子

山形放送に毎週日曜日夜10時から1時間放送される「地球列島22時」というニュースワイド番組がある。「東京経由」のニュースではなく、世界のさまざまな出来事を直接山形へ伝えるユニークな番組である。

昨年5月、CYKがカンボジアの総選挙のようすを伝えたのが始まりで、10カ国の「国際レポーター」のひとりとして、月に1度プノンペンから山形へ、カンボジアのようすを国際電話で伝えている。

日本に帰国中の2月3日、同放送の社内研修に招かれ、カンボジアの村のようすを話した。カンボジアのようす、日本の子どもたちとカンボジアの子どもたちの比較、日本の社会でNGOがどのように受けとられているか、どのような困難があるか、日本は政治・文化両面で欧米の方を向

き、アジアを軽視していないか……などなど。社会の燈台である放送局の方々らしく熱心な質問が出され、こちらもとても勉強になった。

次いで4日のラジオの生番組で、CYRの活動を山形の聴取者に向け話す機会を得た。10数年ぶりの大雪の中、皆さんに歓待していただき、またCYRの活動に支援を得て、寒さを感じない2時間だった。今後とものご支援を切に願っていたい。

豊田市と パライ村の 出会い

CYR, 東京事務局
高田美江子

所どころ雪が残る田んぼ道の中にめざす豊田市勤労センター「憩いの家」があった。訪問の目的は、訪日中のタイ・プロジェクトの責任者プット・ブトラットが「豊田婦人ボランティア会」に活動報告をすることになった。

昨年6月、デック(CYRのタイ組織)のシビカ・プラコプサンティスクが同会を訪問した際、「教育関係の活動に役立ててください」と寄付金をいただいた。デックではタイのアランヤプラテート郡パライ村にあるソータイセリー小学校での図書活動に役立てることに決定し、今年1月より絵本の購入を開始した。「豊田婦人ボランティア会」との出会いをプットは語る。

「豊田寿子会長、山本雅子事務局長をはじめ15名の方々が迎えてくださった。自らも北タイの村の中学校支援活動を手がけてこられた経験豊かなボランティア会の皆さんの温かいもてなしに、初めてお会いした気がしなかった。どれも熱心に耳を傾け、目も子どもにそれに似て輝いていた。タイをもっと知りたい、理解したい、タイから学ぼうといった気持ち、言葉を越えて伝わってきたことが何よりもうれしく、知らない異国の町へ来て友人に出会えた思いがした。

今回新たにいただいた寄付金を引き続き、村の子どもたちの絵本のために使わせていただきたい。村の人たちや学校の先生と子どもたちに、皆さんのことを語ります。豊田とアランヤプラテートがとても近くなった気がして、うれしい出会いだった。」

豊田婦人ボランティア会とは豊田市の勤労センター「憩いの家」設立の母体であり、地域在住の若者たちのためにボランティア活動を行っている。

1988年から「チャレンジア・アジア」と名づけたタイ国ボランティア体験ツアーを実施し、若者たちが北タイのピッサノローク県にある中学校を訪れている。CYRは、1985年から同会の支援を受けている。



傷んだ絵本を修理するソータイセリー小学校の子ども
A school boy mends the broken picture book
at Sothaiseri school
photo: プット・ブトラット Poot Butrat



小学校建設現場で進む土台工事。作業員たちと鈴木さん（中央）
Takashi Suzuki (center) with the workers at the site of Tekkaponyo primary school

手作業の 小学校建設

——カンボジア

五洋建設監建築設計部
一級建築士 鈴木隆史

昨年12月24日から元旦まで、ボラティアとしてプノンペンへ行きました。プノンペン郊外のテッカポニョ小学校建設の現場監督という大任、まして初めての東南アジア、ただに政情不安定なのではという先入観等々のかかりのプ

レッシチャーのもと、プノンペン入りしました。

現場はCYKの事務所から車で約40分、農耕地帯既存の小学校の庭先（どこまでが庭かは不明）にありました。まず驚いたのは、作業員がほとんど裸足にサンダルばき、ヘルメットもかぶらず、機械らしい物は皆無、ほとんどの作業は手作業で、しかも図面を見ながら作業している人間は誰もいないということでした。どこからチェックしていったらよいか分からず、ほとんどボー然としてしまいました。ところが毎日現場に出ているうち、私自身あちらの生活に馴染んでしまったのか、ほとんどのことが気にならなくなっていました。

最低限の寸法や品質の管理さえしていれば、皆まじめによく働き、作業は進んでいきます。ひとつの国の気候・風土、文化・歴史の中で生まれた風習や方法を、機械性や効率という名のもとに否定してしまうのは間違いないのではないか、と感じました。

Yamagata Broadcasting Company and CYK by Michiko Nomura /CYK

Ymagata Broadcasting Co. presents a 1-hour evening news program every Sunday, featuring world news reported directly from 10 countries.

I have been making a report from Phnom Penh every month to them from Phnom Penh, since the general elections last year. I was invited to the Radio Station in Feb. and talked about the Cambodian situation, the challenge which NGOs face in Japan.

■ ■ ■

Toyota Women's Volunteer Society by Mieko Takata /CYR Tokyo

I visited Toyota Women's Volunteer Society with Poot Butrat, a field

coordinator of the Thai project. The Society gave donations to DEK(CYR's Thai project team) last June. Then, DEK has bought picture books for the primary school in Parai vil., Aranyaprathet, Thailand.

Poot was grateful for the kind hospitality of the 15 members, led buy chairperson Kazuko Toyota and Secretary-General Masako Yamamoto, who were all interested in learning more about Thailand. Donations DEK received this time will also be used for purchasing picture books for the children in the villeges.

Toyota Women's Volunteer Society in Toyota, Aichi Pref. provides local young people with opportunities for volunteer activities, such as "Challenge Asia" for a junior high school in Phitsanulok Prov. in the north of Thailand. CYR received their contributions first in 1985.

To Help Construction of a School Building

by Takashi Suzuki

Registered Architect

Penta Ocean Construction Co.,Ltd.

As a volunteer, I participated in the construction of Tekkaponyo primary school in the suburbs of Phnom Penh from Dec. 24, '93 to January 1 this year.

To my surprise, workers wore neither helmets nor the special shoes required in Japan for safety.

They did not use any machines either. I soon found, however that the work went on smoothly, and felt that practices rooted in the local climate, culture, and history should not be under estimated to seek efficiency.

■ ■ ■



指導しているのは(左)ピアップ先生

生徒は、CYRカンボジアの織物トレーニング第一期生の1人

Pheap teaching one of the first students for CYK's Weaving class in Tekkaponyo, Cambodia

"Cyclo News" to report on the impressions from Cambodia as seen and heard in Phnom Penh and the Surrounding villages

Jan. '94

The weaving class started in Bankeang, Prey Ta Touch last December for young women aged 15 to 22. The instructor is Pheap (Kampoy Tongnam, a CYK Thai staff with 8 years of teaching experience in Khao I Dang refugee camp in Thailand). All the students are beginners. They are timid and clumsy. We hope that the students will be able to weave when the 3-month class is over and hopefully that some of them will be able to teach eventually the new group.

プノンペンの騒がしい車の流れにおかまいなく静かにゆったりと走るシクロ その動きのようにマイペースでプノンペンに暮らしている 見ること、聞くこと、感じることをそのままお知らせするのが『しくるる通信』です

バンキアン村プレイトウで、昨年12月から「織物トレーニング」が始まった。指導はピアップ先生。第一期の受講生は全員初心者で15、22歳の若い娘さんたち。織物ハウスに村でふたつめのトイレができた。もちろんひとつめは保育所にある。でも、みんな使い方がわからない。つまりピアップ先生は、織物の他にも教えることがたくさんあるのです。

コースの初めは、クローマーという日本の手拭いにあたるクメールの生活になくはない布を織ること。糸の用意も済み、いよいよ織りの工程。機の前に座った受講者。いよいよ織り始めか、と見てい

る方も力が入る。横糸を通す桿を勢いつけて滑らせる——「あら!?」勢いがつきすぎて桿は止まらず地面に落ちてしまう。全員一瞬の沈黙の後、爆笑! セットされた縦糸を上げ下げするのに、竹の棒を足で踏んで操作する。竹の棒はヒモに固定されていないため、踏み方によってはいとも簡単にはずれてしまう。あらっ! あらっ!

「これが機織りですか。ぼく見るのは初めてです。あの「鶴の思返し」のやつです」

ね? 「……はい」

「……はい」

「……はい」

毎日、和やかにトレーニングは続けられています。

1994年1月

ピアップ (本名 カンボイ・トングナム) CYKのタイ人スタッフ、カオイダン難民キャンプのCYRプロジェクトで8年もの間織物を教えていたベテラン、スリン州出身で、タイの村だガクメール語圏。

カンボジアの村から

ド・デック

ド・デック
タイ・アランヤプラテート発
Dor-DEK
from Aranyaprathet, Thailand

ある週の献立 (バライ村保育所)

MENU(Parai Child Care Center)

	給食のおかず LUNCH Menu	おやつ SNACK
(月) Mon.	タイ風茶わん蒸し steamed egg	手作り豆乳 soya bean milk
(火) Tu.	鶏肉とソラタケのスープ chicken soup	菜園からのバナナ banana
(水) Wed.	焼き魚(アジ科)に甘酸っぱいソースをかけたもの grilled fish with sweet and sour sauce	米の粉から作った生菓子 sweets made from rice powder
(木) Thur.	魚(養魚池から捕れたなまずの一種)の蒸しもの steamed fish(breeded catfish)	手作り豆乳 soya bean milk
(金) Fri.	豚肉と野菜のスープ vegetable soup with pork	蒸したイモにココナッツミルクをかけたもの steamed potatoes with coconut milk

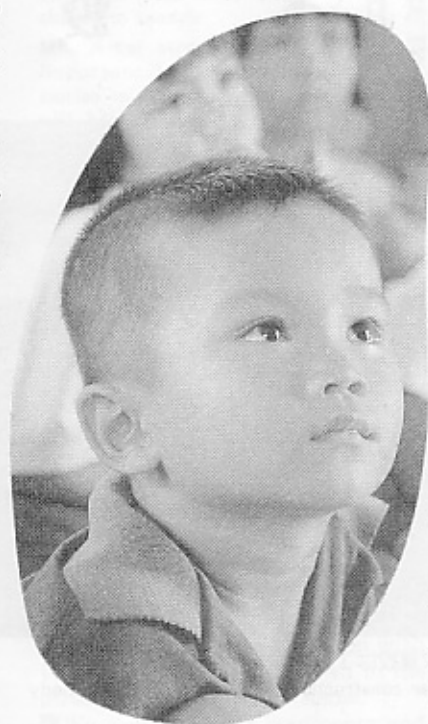
子どもたちは毎日残さず食べています。 Children leave no food.

保育所の1週間のおやつは基本的に

果物	2回
タイの菓子など	2回
手作り	1回

Basically, we serve fruit twice a week and Thai sweets and homemade snacks a week.

タイの村から



Dor-DEK is a 1-page quarterly news letter to help villagers how they should care for their children.

What Children Eat at the Child Care Center

The snack menu is different every day, and handmade snacks are served on Fridays. This is enough to cover the needs of children. They do not need money to buy other snacks.

Balanced snacks will help children's growth. Vegetables grown in our garden without using chemical fertilizers are nutritious and safe for their health.

• We appreciate the kind hospitality of our home visit.
• We are grateful for the funds and rice we receive every month without delay.
(from Napa Khornings and Janpong Kankham)

『ド・デック』はタイの村で
保母が綴るささやかな通信です
これを通して、村の皆さんに
子どもの成長の問題を伝えます
例えば、子どもの育てかた、教育、
年齢に応じた成長発達、
そして健康についてなど
『ド・デック』は
3カ月に1度発行します
子どもは私たちに
今日そして未来への希望です

子どもたちの食べ物

月曜日から木曜日まで、おやつ
の時間に子どもたちは毎日違った
お菓子か果物を食べています。金
曜日には私たち2人がおやつを手
作りしています。最近はおやつが
ちが外でお菓子を買わなくなり、
以前に比べかなり良い状況になっ
てきました。繰り返しますが、ど
うか子どもにおやつ代を渡すのを
控えてください。保育所におやつ
がありますので、これからも協力
をお願いします。

おやつは、成長段階にある子ども
たちの栄養を補う上で大変役立
ちます。また去年と同じに、自分
たちで栽培している野菜を使って
スープを作ったり、野菜炒めを
作って子どもたちに食べさせてい
ます。これは大変栄養になります。
どうしてかといえば、この野菜は
まったく化学肥料を使わないで
作っているからです。子どもたち
は栄養価の高い安全な食事をとる
ことができるので、みなさんも、
そして私たちも安心です。

もし、家について時間のある方は、
私たちの野菜作りの手伝いに来て
ください。
(その他のお知らせ)
● 家庭訪問の際はどなたも快く迎
えてくださいました。お土産にマ
ンゴーやパイナップルをいただき、ご
ちそうさまでした。
● チャンボン、ゲー、2人の先生
からひとこと。「毎月、保育料30
バーツとお米をきちんといただい
ています。ありがとうございますま
す。」
● お母さんグループの活動が少し
お休み中ですが、野菜作りやおや
つ作りをお忘れなく。



■織物プロジェクト

初日のようすについては「しころ通信」参照
A Weaving Class (Related story in "Cyclo News")

Bankeang, CYK's Forth Nursery School in Cambodia, Opens in April

Bankeang villagers agreed, in mid-Dec., to the idea of having a nursery school, which will open in April at the village common.

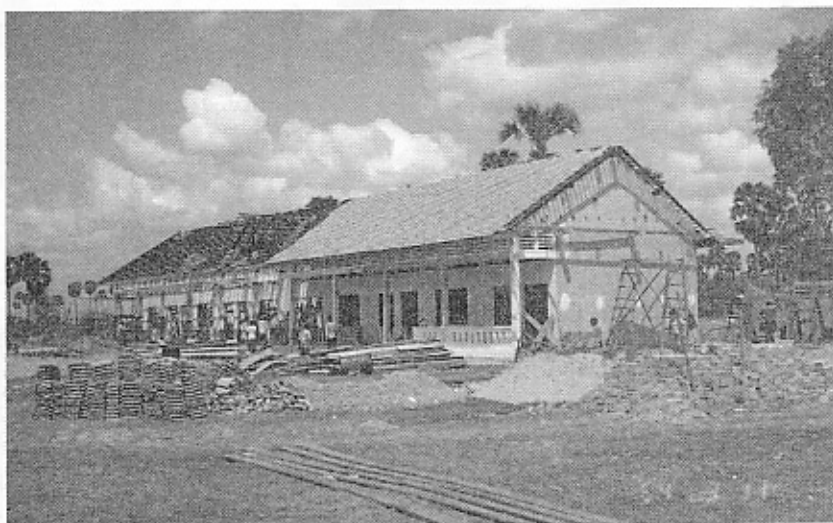
63 families want to enroll their 78 children.

去る12月中旬、バンキアン村の村長、副村長、WAC（カンボジア女性協会）村代表、CYKが共催でバンキアン保育所開設について村民集会が開かれました。村から70家族が集まり、保育所、その運営についての説明のあと、村長、WACからも、村の子どものための保育所であり、皆が協力して運営するならとのことから、CYKも支援することになりました。隣村プレイタトウの保育所のこととは皆知っていて、ぜひバンキアンにも保育所をとの要望で開設が決まりました。建物は村の共有地に建てます。さっそく、子供たちのための木陰を造ろうと苗木が植えられ、村の人たちもはりきっています。

去る12月、各家庭の状況、村の状況を調べたところ、63家族78人の子どもが保育を希望していることがわかりました。1月になって、保育者希望の村の女性を募り候補18人を決定。収穫作業が終わる2月末から保育者トレーニングを始め、4月から保育もスタートします。

バンキアン保育所新設
カンボジアで4番目
スタートは4月

テッカポンヨ小学校建設



昨年12月着工のテッカポンヨ小学校建設は3月末完成、竣工式は4月初め
Tekkaponyo school building is under construction. The completion ceremony is scheduled for mid-April.

タイの村に絵本の贈りもの

子どもたちに夢を届けよう!

本の楽しさをパライ村の子どもたちに

愛知県豊田市「豊田婦人ボランティア会」の協力を得て、この1月から絵本の購入を開始。絵本を贈るだけでなく、本の楽しさ、大切さを子どもたちにも学校の先生にも伝えたいというもの。まず、低学年を対象に本の読

み聞かせを始め、生徒たちが図書管理もできるようにするのが理想。日本から、ボランティアの愛敬千佳子さん(図書館司書)が助言にあたります。

日本の絵本を翻訳しよう

上智大学生、石丸奈加子さんが中心となって始めた活動。もともとタイやカンボジアで、絵本に触れる機会のない子どもたちを見たり、現場のスタッフから「絵本を子どもたちに」という声があり、ボランティアの仕事になっ

た。駒場幼稚園の鹿野京子園長先生、洗足学園の宮地敏子先生、モンテッソーリ保育の深津高子先生の協力を得ながら進めています。現在は、日本の絵本をタイ語に翻訳し、タイの村の子どもたちに紹介する予定です。

巡回する絵本棚

本のない保育所、保育所のない村の子どもたちのためのプレゼントは、木製の絵本ラックに詰め込まれた絵本です。アランヤプラテートの6カ所の小学校と15カ所の保育所の本の状況を調査後に巡回を計画しています。目下、スタッフ間で読み聞かせの自己トレーニング実施中。

ボランティア愛敬千佳子さんの言葉
子どもが本の世界へ誘われていく最初のきっかけは、おそらく親や祖父母のおはなしや読み聞かせでしょう。幼児の心は本の世界で遊び、楽しみ、本の世界に溶け込んでいきます。

Picture Books for Children

Three projects are under way to give local Thai children opportunities to enjoy picture books.

With the support of Toyota Women's Volunteer Society, DEK purchased picture books early this year for a primary school in Parai. Chikako Aikei, a librarian, volunteers her advice.

The second project, initiated by Nakako Ishimaru, a Sophia University student, is to introduce more picture books to children.

With the help of Kyoko Kano, director of Komaba Kindergarten, Toshiko Miyaji of Senzoku Gakuen and Takako Fukatsu, a Montessori school teacher, books are being translated into Thai.

The Local staff members also prepare for a story telling tour for children who have no chance to read.

Ms. Aikei stresses the importance of reading stories to children which will help to develop the power of imagination.

事務局より

■ 2年毎に更新しておりますCYR会員名簿を作成中です。新たな1994年度会員名簿に掲載を希望されない方は、東京事務局までお知らせください。

■ CYRへのご意見、ご希望、ご質問を事務局(☎ 03-3353-9947)までお寄せください。

■ The CYR members directory is printed every 2 years, and is now being updated for 1994. If you wish your name to be not shown in the directory, please let us know.

■ We welcome your comments and opinions, please contact the Tokyo office at 03-3353-9947.

Field Trips to Thailand and Cambodia

CYR フィールド・トリップ 1994

今年から新たな企画として、会員のためにCYRの現場活動への参加研修を計画しています。

8月中旬はタイへ、11月上旬をカンボジアでの体験にと、いま現場のスタッフとスケジュールを調整中です。

詳しくは、東京事務局へお問い合わせください。



Starting this year, CYR will organize visit programmes for members to gain experiences of the local activities of CYR's operations. The area of visits will be Thailand and Cambodia for August and November. For further information, please contact the Tokyo office.

国際社会のかけ橋をめざして

CYR, a Bridge to the Global Community

「幼い難民を考える会」は、難民になったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、14年前に組織されました。緊急援助のさなか、子どもたちが安全で安心できる場所をカンボジアの人たちとつくりながら、相手の自立を侵したり、管理する態勢に陥らないようにすることも学びました。

「難民の子ども」ではなく、人格をもった「幼い難民」として保育を受けた子どもたち7833人（1980年6月～1992年11月）も、カンボジアを含むさまざまな国で新しい人生を歩んでいます。

CYRの活動は難民救済から新しい段階に入り、小規模の地域開発を手がけるまでになりました。タイの国境の村とカンボジアの村で、「考える会」が行なっているのは、難民の問題に影響を受けた地域の人びとの自助努力を支えることです。これは試みとしては小さなものに過ぎません。

しかし日本とタイ、そしてカンボジアを結ぶ国の交流は、日本に求められている国際社会での役割について、たくさん示唆を与えてくれます。

難民の問題に学び、これを出発点として、地域の人びとを知り、よりよい暮らしをめざしています。それは人びとが再び難民にならない、安定した社会をつくる道につながるからです。

“Caring for Young Refugees” was established 14 years ago to assist the Cambodian refugee children in a refugee camp. The children were then the source of our aspirations to be better members of the world community. We learned to care and respect each other as an integral part.

The young refugees who attended CYR's Child Care Centers counted 7,833 since 1980 until the closure of the camp in 1992. Although in a small scale, CYR now operates in two countries; Thailand and Cambodia continuing to focus on a developmental work where spirit of self-help is essential, but where children and women are much in need of support for their well-being. CYR's aim is to encourage people to live with integrity and in harmony.

幼い難民を考える会
 CARING FOR YOUNG REFUGEES
 〒160 東京都新宿区南元町6-2
 ☎03-3353-9947 Fax 03-3353-9739
 Head Office: 6-2, Minamimotomachi,
 Shinjuku-ku, Tokyo 160, Japan
 Bangkok: V.V.V. Apt. 23, 135 Soi Phayanak,
 Phayathai, Bangkok, Thailand
 ☎ 215-0658
 Phnom Penh: No. 48 St. 306 Sangkat Beung Keng Kong,
 Khan Chamkar Mon
 Phnom Penh, Cambodia
 ☎ 18-810261

発行人 ■ Publisher
 深水 正徳 Masakatsu Fukamizu
 編集責任者 ■ Editorial Director
 世尾 勝 Masaru Sasao
 翻訳 ■ Translation
 小坂 恵理 Eri Kosaka
 ヘザー・サザランド Heather Sutherland
 レイアウト入力 ■ OTP Layout
 亀田 万里 Mari Kameda
 印刷 ■ Printed in Japan
 小田切印刷 by Odagiri Printing Co., Ltd.

申込書

CYRへあなたのご支援をお寄せ下さい

申込日 年 月 日
 お名前 男・女
 ご住所 〒
 ☎
 勤務先/学校名

(入会希望の方)
 ■ 会員になり、活動をご支援ください。
 会費は年6,000円。お支払いの方法は2つ。

- (どちらかをお選びになり、数字をご記入下さい)
 ① 年払い6,000円(年 月～年 月分)
 ② 月払い 500円(年 月分)

(寄付の方)
 ■ 活動支援のためのご寄付は、払込用紙に
 「寄付」と明記の上、ご送金ください。

※会費/寄付の方共にご送金とは別に、この用紙を切り
 取って事務局宛にお送り下さい。
 ※既にご送金下さった方も申込書は別途お送り下さい。

会費/寄付金の振込先 ① 郵便振替 口座番号 東京 1-36227 (5月より00110-8-36227)
 (払込方法に○印をおつけ下さい) ② 銀行振込 第一勧業銀行 広尾支店 普通 057-1280817